

歴代役員写真

歴代会長



初代 和 気 政 雄
昭和29年12月～



第2代 富 永 元 順
昭和38年6月～
第4代 昭和59年6月～



第3代 市 村 嘉 久
昭和47年6月～



第5代 安次富 長 昭
昭和62年7月～



第6代 大 城 盛 三
昭和63年6月～



第7代 比 嘉 正 幸
平成6年6月～現在

歴代副会長



安次富 長 昭
昭和61年6月～
昭和62年6月



新 川 豊
昭和61年6月～
昭和63年6月



宮 国 義 夫
昭和61年6月～
昭和62年6月



大 城 盛 三
昭和62年6月～
昭和63年6月



石 原 昌 弘
昭和63年6月～
平成14年6月



金 城 名 輝
昭和62年6月～
平成14年6月



宜保美恵子
平成2年6月～
平成14年6月



森田恒勝
平成2年6月～
平成6年6月



比嘉正幸
平成2年6月～
平成6年6月



知念績一
平成6年6月～
平成14年6月



喜屋武盛基
平成2年6月～
平成16年6月



赤嶺健治
平成14年7月～
現在



高 嶺 善 包
平成14年7月～
現在



西 大 八重子
平成14年7月～
現在



津 留 健 二
平成16年7月～
現在



玉 城 忠
平成16年7月～
現在

歴代事務局長



仲宗根 健 三
昭和59年7月～



又 吉 慶 次
昭和62年7月～



平 良 善 一
平成2年10月～



友 寄 賢 吉
平成6年7月～



玉 城 健 三
平成11年7月～



喜 納 安 武
平成13年7月～



宮 城 武 久
平成15年7月～現在

大学支援事業と記録写真

琉球大学への協力と支援

昭和35年12月	開学10周年記念事業協力
昭和45年12月	開学20周年記念事業協力
昭和55年12月	開学30周年記念事業協力(2,800万円)
昭和60年10月29日	大学移転統合記念事業援助費贈呈(200万円)
昭和62年7月2日	琉球大学の歌制定援助費贈呈(80万円)
昭和63年9月5日	琉球大学の歌制定援助費贈呈(75.4万円)
平成元年5月22日	「首里の杜石碑」 建立贈呈(132万円)
平成元年~現在	学生「課外活動」 援助費贈呈(毎年150万円)
平成2年6月16日	開学40周年記念事業協力(1512万円)
平成2年~現在	入学生に入学祝いとして「テレフォンカード・CD」 贈呈
平成2年~平成11年	卒業生に卒業祝いとして「テレフォンカード・CD」 贈呈
平成4年6月	八重山芸能研究会東京公演援助費(30万円)
平成6年1月	「琉球大学跡石碑」 建立・首里城跡(100万円)
平成6年1月	「琉球大学医学部跡石碑」 建立・那覇市与儀(100万円)
平成6年9月	国家公務員1種受験講座費援助(30万円)
平成7年3月	開学45周年記念事業協力「彫刻：なみ」 贈呈(100万円)
平成7年11月	八重山芸能研究会ハワイ大学交流援助費(20万円)
平成7年11月	国家公務員1種受験講座費援助(30万円)
平成8年3月	短期大学部閉学記念碑「向学ノモン」 贈呈(100万円)
平成9年6月	国家公務員1種受験講座費援助(30万円)
平成10年7月	琉大エイサー隊ブラジル遠征費援助(10万円)
平成12年6月	開学50周年記念事業募金協力(6,513万円)
平成15年6月15日	シーサー台座寄贈(40万円)
平成16年10月	ブロンズ製シーサー1対寄贈(110万円)
平成16年11月13日	「琉大キャンパスイン県民広場」に協力参加(県民広場)
平成15年~現在	学生課外活動及び就職支援「職業講話」開始
平成16年3月	Tシャツを製作販売(120万円)
平成15年7月19日	同窓会支部旗贈呈(6支部) 関東支部、関西支部、九州・山口支部、 奄美支部、宮古支部、八重山支部
平成16年7月30日	琉大ウェア製作販売(300万円)
平成17年3月24日	同窓会創立50周年記念植樹(12.5万円)
平成17年12月8日	琉球大学50周年記念館案内石柱設置(20万円)

※協力金等支出集計

- ①開学記念費・記念碑等建立等=1億086万円
- ②課外活動援助費・職業講話 = 2,260万円
- ③入学祝・CD贈呈援助費 = 2,600万円
- ④琉大ウェア・Tシャツ製作費 = 420万円
- ⑤創立50周年記念樹費 = 6万円

※合計=1億5千372万円

支援協力記録写真



大学移転統合記念事業援助費贈呈
昭和60年10月29日



琉球大学の歌制定援助費贈呈 昭和63年 1月



課外活動援助費贈呈 平成元年度～



首里の杜碑建立贈呈 平成元年 5月



八重山芸能東京公演派遣費補助
平成 2年 6月
ハワイ公演派遣費補助
平成 7年 11月
琉大エイサー隊ブラジル公演派遣費補助
平成 10年 7月



新入生に琉球大学の歌と逍遙歌
収録のCDの贈呈



新入生にテレフォンカード



新入生にテレフォンカード



琉球大学跡石碑建立・首里城跡
平成6年1月



琉球大学医学部跡石碑建立
平成6年1月



開学45周年記念事業協力・なみ
平成7年3月



短期大学部閉学記念碑「向学ノモン」
平成8年3月



50周年記念館建設資金贈呈
平成12年6月



就業支援職業講話の実施
平成15年10月～



50周年記念館前シーサー
平成16年10月



Tシャツ製作 平成16年3月



琉大キャンパスイン県民広場
平成16年11月13日



琉大ウェア製作 平成16年7月



さわふじ記念植樹 森田学長と比嘉会長



左から高嶺副会長、比嘉会長、森田学長、幸喜評議員、赤嶺副会長

琉球大学同窓会創立50周年記念式典式辞



琉球大学同窓会長 比 嘉 正 幸

本日ここに森田孟進琉球大学学長を始め、多数のご来賓のご臨席のもとに琉球大学同窓会創立50周年記念式典を挙げて行きますことは、琉球大学同窓会にとりまして大きな喜びとするところであります。

琉球大学同窓会は、1950年に開学した琉球大学と共に歩んでまいりました。同窓会の歴史を顧みると当然のことながら、そこには琉球大学の辿った道のりが二重写しのように浮かんでまいります。

琉球大学は1950年5月22日、戦禍によって廃墟と化した首里城の跡地に米国軍政府によって創設されました。創設当時の学生数は2年次、1年次を併せて562名、教職員44名施設も石造2階建本館の瓦葺き教室八棟というきわめて小規模なもので、このことから8ミリ大学等と揶揄されたこともありました。設備や教材には恵まれませんでした。当時の学生の学問に対する情熱は並々ならぬものがありました。

1953年3月一回生26人、翌1954年3月二回生122人がそれぞれ卒業しました。入学時に比べ卒業生の数がかかり減少しているのは、当時は琉球大学が予備校的な面もあり、途中で本土の大学やいわゆる米留学に行った人達が多数いたためといわれています。1954年12月、この第1回、第2回の卒業生146名が中心になって、会員相互の親睦を図り母校の発展に寄与することを目的として、同窓会が設立され初代会長に和気政雄氏が選出されました。

大学は1966年琉球政府立となり、1972年には念願の施政権返還に伴い国立大学となり、1982年には校舎を現在の千原の地へ移転しました。

この間大学の施設の充実と共に年々卒業生の数も飛躍的に増大し、県内はもとより広く海外においても各分野で活躍されています。1985年には宮古支部が結成され、その後県内外に7つの支部が結成されました。

母校の発展に伴い同窓会の活動も少しずつ軌道に乗り、諸先輩の尽力で開学30周年、開学40周年にはそれぞれ記念行事のための募金活動も行いました。また1989年頃から学生の課外活動に対して継続的に経済的な支援をすることができるようになりました。

そのころ同窓会は独自の事務所を有することが出来ず、大学のご好意で事務局棟の一角にわずかなスペースをお借りしているような状態で役員が集って会議をすることさえ不自由な状況でした。

西暦2000年5月、大学は開学50周年を迎え、各種記念行事を行いました。同窓会も、大

学当局、後援財団と共に積極的に募金活動を行いました。2003年6月大学当局のご尽力でこの募金による資金をもとに、記念事業のひとつである50周年記念館が大学構内に完成し、その建物の一角に懸案の同窓会事務局が設置されました。独自の事務局の設置に伴い同窓会活動も一段と活発となり、この記念館を利用して役員会を始め各種集会を行うことができるようになりました。現在同窓会は、この施設を利用して学生の就職活動支援の一環として職業講話を行っております。

現在同窓会は会員6万2500余名を擁し、関東、関西、九州・山口、奄美、宮古、八重山、久米島に支部があり、また多くの学科同窓会をかかえています。

2004年4月国立大学が法人化することになり、琉球大学もその運営のしくみが大きく変わりつつあります。そのことと関連して、今後同窓会が果たすべき役割も大きく変わらねばならなくなりました。

私達同窓生は、母校に対する恩返しの意味からも、同窓会の組織をより強固にし、母校のためにあらゆる分野においてこれ迄以上に物心両面での支援を行わなければならないと考えています。

創立50周年という節目の時にあたり、同窓会の創立、発展のためにご尽力下さった大学当局及び同窓生の皆様を始め、各界各位の皆様にあらためて感謝の意を表しますとともに、今後ともいっそうのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます、式辞といたします。

2005年2月12日

琉球大学同窓会創立50周年記念式典祝辞



国立大学法人琉球大学
学長 森田 孟 進

本日、ここに琉球大学同窓会創立50周年記念式典が挙行されますことに対し、心からお祝いを申し上げます。

2000年に琉球大学開学50周年記念事業が実施されました際には、同窓会の皆様から高額のご寄付を賜りました。また、併せて母校への精神的支援をいただきましたことを改めて深く感謝申し上げます。

おかげをもちまして大学キャンパス内に50周年記念館が建立されました。この記念館の入口には同窓会から寄贈されました見事なシーサー2基が鎮座していて、記念館に一種の風格さえ与えております。本学の西村貞雄教授の手になる傑作でブロンズ製であります。ここで付け加えて申し上げますと、琉球大学同窓会は、その創立以来今日まで、母校の記念事業への寄付金として1億540万円、学生課外活動援助金2千110万円、新入生並びに卒業生への記念品2千568万円、総額1億5千218万円という実績が残されております。

同窓生の皆様の社会での御活躍は母校に取りまして大きな誇りであり、宝であります。それ故、母校が発展するために容易ならぬ事態が起こった場合には、表だっても水面下においても、力強いご支持を頂いております。その一例を上げますと厳しい審査と競争の中で設置に成功しました法務研究科いわゆる法科大学院へのご支援がありました。

今年4月1日付けで観光科学科を立ち上げます。また、昨年来構想を練っております海洋生産学部もしくは学科を2007年4月に設置することを中期目標・計画の重要課題としています。泡盛の産地沖縄にふさわしい醸造学科もしくは発酵科学科設置の検討にも入っておりますので、引き続き皆様のご助言ご支援を心からお願い申し上げます。

御存知のとおり、我が国の全ての国立大学は法人化され、法人化ゆえの解決すべき問題点・課題を数多く抱えております。法人化後、同窓会の皆様の母校へのご支援はこれまで以上にますます重要になるものと私は考えております。現在、同窓会会長の比嘉正幸氏が母校の経営協議会の委員として、かつまた、学長選考会議委員としてご苦勞なさっていらっしゃるという一事をもってしてもそのことは明らかであります。

我が国の国立大学は、競争と評価にさらされつつ、種別化に向かい、近いうちに淘汰の時代に入るものと予測されます。琉球大学は、「地域特性と国際性を併せ持つ大学」として他に類のない個性豊かな大学として発展するための戦略を練りつつあります。

大学がこのきわめて困難な状況に直面しています今日、重ねて同窓会の皆様のご支援をお願い申し上げます。

終わりに、皆様の御健勝と御活躍、同窓会の一層の発展を心から願ひまして私のお祝いの言葉といたします。

2005年2月12日

琉球大学同窓会創立50周年記念式典祝辞



西原町長 新 垣 正 祐

本日ここに、来賓並びに関係各位の出席の下、琉球大学同窓会創立50周年記念式典、祝賀会が挙行されますことは、誠に喜ばしく、地元西原町を代表し、心からお祝い申し上げます。

御案内の通り、琉球大学同窓会は、1954年（昭和29年12月4日）同窓会発足以来、会員相互の親睦と母校「琉球大学同窓会」の発展を願い、同窓会関係各位が一丸となって、順調に発展を遂げられ、本日の記念すべき50周年を迎えられたことは、誠にご同慶の至りであります。

琉球大学の開学以来、幾多の世相にもかかわらず、終始一貫してその崇高な理念を堅持し、特色ある学風を樹立され、また、昭和59年8月首里キャンパスから西原町への完全移転等により、130万平方メートルの広大な西原町千原キャンパスへの教育施設の充実を図って面目を一新し、今日の隆盛をみたのであります。

今日までに輩出された卒業生の数は、6万余名に及び、政財界はもとより、教育、文化等各界において有為の人材を送り出し、国内外での縦横の御活躍を戴いておりますことは、御案内のとおりであります。

このように同窓会創立から50年の歩みを刻む中で、琉球大学同窓会は県内唯一の国立大学として地域社会や国際社会において高く評価されておりますが、特に国内外大学との姉妹校の提携、学術交流協定の締結をはじめ、地域に開かれた大学をめざした各種公開講座の開講、ボランティア活動支援等は、琉球大学同窓会同窓会の建学精神を彷彿させるものであります。

又、同窓会事業においても、支部活動の支援、学部・学科同窓会との交流・連携強化に取り組むなどすばらしいものがあります。

このように、琉球大学同窓会が着実に前進して参りましたのは、これも偏に歴代学長をはじめ、教職員、同窓会関係各位の限りない情熱と地道なご努力の賜物であり、ここに衷心より敬意と感謝の表する次第であります。

我が国をめぐる内外の社会、経済情勢は激動し、ボーダーレスの国際社会を迎えようとしておりますが、今後、琉球大学同窓会が21世紀の国際社会で活躍する人材養成に向けて、益々邁進されんことを心から期待して止みません。

終わりに臨み、琉球大学同窓会創立50周年を機に、比嘉正幸会長をはじめ、関係各位の尚一層のご尽力により、益々飛躍・発展されますよう祈念申し上げまして祝辞といたします。

2005年2月12日

記念行事記録・写真

創立50周年記念行事の取り組み経過

平成14年11月27日	平成14年度第1回評議員会で「記念行事」の計画案審議 (趣旨、組織について事務局長提案)
平成15年6月5日	学部・学科同窓会役員、学内同窓会員、本会役員で審議
平成15年6月20日	同窓会創立50周年記念「行事委員会」を発足実施「趣意書」を決定し、5部会組織設置を承認
平成15年11月6日	第1回行事委員会と芸術祭等部会合同委員会 引き続き 第1回芸術祭等部会
平成15年12月17日	第2回芸術祭等部会 午後6時~ 会場：50周年記念館 記念行事委員会・部会組織と赤嶺健治部長選出決定
平成15年12月19日	第2回祝賀行事部会 午後6時~ 会場：50周年記念館 記念祝賀行事委員会・部会組織と部長選出 玉城忠決定
平成16年2月20日	第1回評議員会(記念行事実施を審議) 50周年記念館
平成16年4月1日	Tシャツ完成新入生に販売開始
平成16年5月10日	第3回芸術祭等部会と祝賀部会 場所：50周年記念館 ①各部会の活動について ②行事の開催時期方法 ③式典・祝賀会の時期と方法 ④開催会場選定
平成16年6月10日	第3回芸術祭等部会 50周年記念館 開催日時や開催会場及び舞台部門・展示部門「工芸展」等の「名称・呼称」及び委員長の選出審議
平成16年6月27日	第1回舞台班実行委員会 ホテルグランドキャッスル
平成16年7月30日	琉大ウェア完成学生・職員に一般販売
平成16年7月14日	芸術祭部会(琉球舞踊・音楽部門)15時 50周年記念館呼称の確認と公演演目・時間とりハーサル日程の確認
平成16年8月2日	平成16年度第1回役員会 「創立50周年」記念行事予算710万円決定
平成16年8月10日	第2回西洋音楽部門実行委員会 15時~名称と出演者・演目・時間とりハーサル日程の確認
平成16年9月7日	第3回西洋音楽部門実行委員会 15時~名称と演目の確定プログラム用資料の提出確認
平成16年9月8日	50周年記念館玄関に同窓会がシーサーを設置
平成16年9月16日	舞台公演「琉球芸能と西洋音楽の夕べ」13時~50周年記念館 ①名称「琉球芸能と西洋音楽の夕べ」に決定 ②入場料1000円 ③公演演目決定 イ.幕開き=かぎやで風、ごえん節、安波節

	ロ.長者の大主 八.四つ竹
	ニ.組踊り=花売の縁 ホ.八重山芸能
	④幕開き演奏者の衣裳決定(同窓会製作Tシャツ)
	◎幕開き出演者へTシャツを支給し当日着用する
	三 線:上着黒系 ズボンは黒系に統一
	琴演奏:赤かピンク 器楽演奏:青
	◎実行委員へは琉大ウェアを支給する
平成16年11月18日	芸術祭部会(琉球芸能・西洋音楽)実行委員と役員合同会議 第1回合同会議 15時～50周年記念館
	①呼称と出演者・演目・時間とりハーサル日程の確認
	②公演当日リハーサル時間割(琉球芸能、西洋音楽)
	③公演終了後の反省会の会場と日時の決定
	日時:平成17年2月26日(土) 会場:ホテル西武オリオン
	④公演日スタッフ確保について(監督・司会・ビデオ係等)
平成16年8月19日	「那覇市民ギャラリー使用許可」される「美術工芸展」として
平成16年9月13日	「美術工芸展」中止を決定
平成16年12月24日	第1回芸術祭舞台・会場下見と控え室配置等確認
平成16年12月24日	平成16年度第4回役員会 感謝状贈呈者と功労者表彰者等50周年記念 行事に関すること
平成17年1月5日	「会報第27号」記念行事広報号として発行
平成17年1月20日	第2回芸術祭会場下見と施設使用舞台運用と音響照明等演出打ち合 わせ(前川、上地、赤嶺、久高、宮城、業者)
平成17年1月21日	平成16年度第2回評議員会開催
	①記念講演会、記念式典・祝賀会、芸術祭の評議員への役割分担を 決定
	②感謝状贈呈表彰者決定(広告掲載企業社、功労者)
平成17年2月10日	創立50周年記念講演会 会場:パレット那覇市民劇場 講師:生物資源利用研究所長 農学部畜産学科10期生 獣医学博士 根路銘国昭先生「ウイルスの森から沖縄の進路を観る」
平成17年2月12日	創立50周年記念式典及び祝賀会挙行 会場:ホテル西武オリオン
平成17年2月19日	同窓会創立50周年記念芸術祭公演 「琉球芸能と西洋音楽の夕べ」 会場:宜野湾市民会館
平成17年2月26日	芸術祭公演琉球芸能と西洋音楽の夕べの「反省・慰労会」 会場:ホテル西武オリオン
平成17年3月10日	創立50周年記念行事(式典及び祝賀会・講演会・芸術祭)総括役員会 開催(同窓会事務局)
平成17年3月24日	創立50周年記念植樹(会長と学長で50周年記念館裏庭)
平成17年12月8日	50周年記念館案内石柱と同窓会創立50周年記念銘碑建立

記念行事企画運営と芸術祭への参加



創立50周年記念事業実施に従事して

琉球大学同窓会事務局長
芸術祭総務部長 宮城 武久

記念事業の計画時期

記念事業の計画は、平成14年11月27日評議員会で開催を決定して、平成15年6月20日に「記念行事委員会」を設置を決定して始動しました。

平成15年11月6日に第1回記念行事委員会が、50周年記念館で開催され、本格的に行事が進行することになりました。以後の取り組みについて感想を簡単に述べてみたいと思います。

記念行事推進で役員メディア挨拶廻り

新役員で就任の挨拶を兼ねて、記念行事への協力方について地元新聞各社や民放各社とNHKを訪ねました。平成16年8月16日にジャボハイヤーを借用して、会長、副会長4名と事務局長の6名が一緒に廻りました。

部会の発足の頃

記念行事委員会は、総務部会、式典・祝賀部会、芸術祭部会、記念誌部会の4つの部会からなっています。委員会委員と部会員の構成と出演者及びプログラムは、芸術祭資料編に掲載の通りになっています。部会長を互選して活動計画を作成しました。

「総務部会」では事務局長が部会長となり、予算確保と行事全般の企画や連絡調整に努めました。

「式典・祝賀部会」では、玉城忠副会長を部会長に選出して、講演会および式典と祝賀会の開催について、検討を重ねました。

また、「芸術祭部会」では、赤嶺健治副会長を部会長に選出して、検討を進めました。この部会には、「琉球芸能部門」と「西洋音楽部門」の二部門をおいて取り組むことになりました。部会長と共に「芸術祭実行委員長」として、前川朝文さんが当たり、琉球芸能班と西洋音楽班を取りまとめました。

琉球芸能班では、島袋君子さんが中心となり、西洋音楽班では、照屋寛八さんが部門長でした。部門長が仕事で多忙な時期に当たり、頻繁に関われないため、久高友之さんが中心となり活動しました。ご多忙な方々ばかりですが、本業をさいて労惜せず献身的に集会を持ち、検討を重ねました。更に本番に向けては、合同稽古においては門下生をはじめ、出演者を指導して頂きました。感謝感激の至りでした。

式典・祝賀部会の取り組み

式典・祝賀部会では、先ず初めに「講演会」を企画しました。輩出人材が豊富な琉球大学同窓会において県民に培った文化と知識をアピールする絶好の機会にするため、是非実現したいとの意向で企画しました。議論の末「ウイルス研究」の根路銘国昭氏に決定しました。開催してみると残念なことに聴衆が、少なかったことです。

折角の素晴らしい内容の講演でしたのに会員をはじめ県民にPRが足りなかったことが惜しまれるます。反省し、申し訳なく思っています。

続いて、式典と祝賀会の持ち方の検討になりました。当初大学キャンパス内で実施することで、場所の選定をしました。講演会にしても式典や祝賀会をするにも出席者の交通の不便や会場が狭いとの結論で、講演会はパレット那覇市民劇場で、式典と祝賀会は、ホテル西武オリオンに決定しました。

式典は、厳粛に計画通り進行しました。永年の感謝を込めて同窓会会報に協賛広告を掲載して頂いています関係企業に感謝状を贈呈することが出来ました。

さらに琉球大学同窓会を創立し、運営して来た歴代会長や副会長及び事務局長経験者に功労者表彰が実現出来たのは有意義なことでした。

琉球芸能稽古スナップについて

特に思い出に残るのが、琉球芸能班の取り組みでした。平成16年12月末から寒い中師範が自分の道場・研究所や50周年記念館において稽古が始まりました。

50周年記念館内では、多目的ホールやエントランスホール及びホワンエ等を使い大勢の会員出演者で賑わいを呈しました。

稽古は、午後6時半から10時までに及びました。組踊や四つ竹は、50周年記念館や時には県立郷土劇場を使用しました。その回数は12回にもなりました。

いよいよ公演日が迫り、琉球大学体育館をリハーサル会場に熱意を込めて実施しました。二回目の体育館での総合リハーサル会場には比嘉正幸会長がお礼と激励に来館しています。

芸術祭当日になって

その日は、朝から寒い日でした。外部では、担当評議員を中心にアルバイトの学生が、会場や駐車場の整理に当たりました。

公演会場の宜野湾市民会館の舞台では、午前からスケジュールに乗って琉球芸能から当日リハーサルに入りました。西洋音楽の独唱とピアノ連弾と続いて本番を待ちました。その間出演者達は思い思いに同窓会事務局からの弁当とドリンクで、一時の休養をとりました。その日の弁当は夕食を含め、500食とドリンク20ケースになりました。

本番では、西洋音楽と琉球芸能との舞台切り替えの幕間20分を利用して、懐かしの首里キャンバスと千原キャンバスのスライドを上映して、思い出を辿りました。

楽しかった芸術祭の裏方

私たちは裏方として、出演者が今度こそ喜んで演じてもらうにはどうするかと腐心したことでし

た。仕事帰りや一時の合間を利用して参加しておりましたので、稽古前に「夕食」と「ドリンク」の提供サービスしました。時には、「ハンバーガ」や「菓子パン」2個、時には市販弁当だったり、新メニューの「豚丼」だったり、その種類選択にも事務局苦心の話題となり、楽しみの一つとなっていました。

しかし、その運搬には苦勞しました。県立郷土劇場や琉球大学体育館に運びました。重かったなー!?

琉球大学開学記念においては、このような心遣いがなかったとのご意見が寄せられましたので、その反省を込めて無料奉仕で出演して頂いています出演者の気持ちを汲み入れました。事務局としては、一方ならぬ心配りをした積もりです。ご理解頂ければ幸せです。

心残りとお詫び一つ

当初計画していました展示部門の「美術工芸展」の中止です。諸般の事情から実現できなかったことは、事務局を預かり、行事を計画する局長として関係各位に深甚なるお詫びを申し上げます。捲土重来を期して何れの日にか実現することを願っています。

琉球大学同窓会創立50周年記念公演 「琉球芸能と西洋音楽の夕べ」大喝采で終幕す



1962年10期卒 教育初教

実行委員長 前川 朝文

平成17年2月19日、琉球大学出身者の県内で活躍する芸能実演家が流派を越えて一堂に会し、宜野湾市民会館にて「琉球芸能と西洋音楽の夕べ」と題し記念公演を開催しました。

琉球芸能部門では、国指定「組踊」保持者8氏、県指定「伝統舞踊」保持者10氏、県指定「伝統音楽」保持者5氏、更に三部門の伝承者や師範・教師資格を持つ実演家、そして一般出演者を含む220余名の総出演となりました。

西洋音楽部門では、翁長剛、嶺井恵子両氏のメリハリの効いた素晴らしい独唱、ピアノ演奏の部では、富原守哉、大宜見良子両氏の連弾による「モーリス・ラヴェル作曲マ・メール・ロア」より三曲、更に百名香代子、百名加奈江両氏の連弾による「Gガーシュイン作曲ラプソディ・イン・ブルー」をそれぞれ熱演され、万雷の拍手を頂きました。

西洋部門の出演者はどのパートにおいても第一人者のアーティストであり、会場を感動の渦で包みこみ、西洋音楽の神髄に触れさせ、素晴らしい演奏で観客を充分堪能させて下さいました。

二部の琉球音楽部門では、50周年に相応しい古典音楽での演奏「かぎやで風節・他」で開幕、今後の発展を祝う「長者の大主」や舞踊二題、そして組踊「花売の縁・抜粋」等各ジャンルを網羅し、内容と演出的にも琉大章をあしらったシャツを着て開幕斉唱する等工夫を凝らした舞台構成を試みしましたので退屈しない締まった舞台となりました。

今回の記念公演では、企画・運営・推進にあたり13名の委員が委嘱され、両部門で母校の同窓会創立記念のためにボランティアで頑張ってくださいました。また、同窓会側から芸術祭等部長の赤嶺健治、事務局長の宮城武久の両氏が全部門を統括するという体制で運営していただきました。

このように運営推進母体と舞台実演陣が巧く連携機能し所期の目的を達成することが出来たと思いますが、多忙の中、手間暇を尽くし舞台を努めた「おらが母校、おらの同窓会」の心意気で愛着を抱く多くの出演者とこの周年行事に寄せる同窓生のご理解とご支援のお蔭で大成功を収めて終演出来たと思います。誠に有難うございました。

ここに、改めて50周年記念公演に寄せていただいた皆様のご芳情に感謝申し上げ、併せて我が母校と同窓会の益々のご隆盛を祈念いたします。

かたていーせーうとうやじらん
「片手では音は出ない」



50周年記念芸術祭

舞台総監督 上 地 和 夫

昭和47年(1972年)5月15日、沖縄は日本に「復帰」しました。

私はその年の3月に、最後の「琉球政府立 琉球大学」を第20期生として卒業した。時代の大きなうねりの中で、県内企業は人員採用をひかえ、卒業当日までの学生就職率は私の記憶では確か20%~30%位のたいへん厳しい状況におかれ、学友達は「これから先どうなるのだろうか?」と不安を胸に各自、首里のキャンパスを後にしたことを覚えています。

あれから30余年、今では我が同期生も各界で敏腕を奮って活躍している。

同窓生も5万人を超えると聞きます。支部も「関東」「関西」「九州・山口」「奄美」「久米島」「宮古」「八重山」の7支部が結成されている。そして、この度、同窓会が創立50周年を迎え、平成17年は多くの記念事業が計画され、私は職業柄「琉球芸能と西洋音楽の夕べ」の舞台の総監督を仰せ付けられました。

この公演は、平成17年2月19日(土)午後6時から宜野湾市民会館・大ホールで行われました。この公演の大きな特徴は、『出演者全員(総勢220余名)が同窓生であるということ。』と「西洋音楽と琉球芸能と異なるジャンルの芸能を同時に開催する」ことで、これまでにめったに無い試みでした。

結論から申し上げますと、この「琉球芸能と西洋音楽の夕べ」は、成功裡に終わることが出来、安堵しているところです。

ところで沖縄の黄金言葉に「片手では音は出ない」があります。

「一人では何事も出来ないよ。手を叩いて音を出そうとしても、片手だけではどんなに頑張っても、手拍子を打つことが出来ないので音は出ない。だけど、二つの手が協力し合えば音が出せる。人の世も、協力するものがいてこそ、物事はうまくいくものです。」との意味。まさにその通りでした。

この公演の出演者には、「国指定無形文化財『組踊』保持者」が八名。「県指定『伝統音楽』保持者・『伝統舞踊』保持者」が十五名の先生方がいらっしゃいました。さらに、出演協力団体を、同窓生にご報告申し上げますので、我慢強く読んで下さい。

琉球芸能「三線・箏・笛・太鼓・胡弓」の部では、野村流音楽協会・野村流古典音楽保存会・安富祖流絃声会・湛水流伝統音楽協会・伝統組踊保存会・琉球箏曲興陽会・琉球箏曲保存会・光史流太鼓保存会・笹の会・沖縄横笛協会・胡弓弓の会・伝統組踊保存会。「琉球舞踊」の部で、親泊本流・島袋本流紫の会・島袋流千尋会・かなの会・真踊流・世舞会・太圭流華の会・玉城流い

ずみの会・玉城流扇寿妙の会・真境名本流・真境名本流真薫会・宮城流鳳乃会・宮城流美代乃会・柳清本流和華の会・琉舞道扇会・八重山芸能琉球大学八重山芸能研究会・新垣和代琉舞道場の現在、第一線で活躍している錚々たるメンバーに加え、西洋音楽は、嶺井恵子(ソプラノ)・翁長 剛(バリトン)の独唱。富原守哉・大宜見良子。百名香代子・百名加奈江のピアノ連弾があり、豪華で多彩な内容でした。

文字通り「遊びぬ美らさや 人数ぬ揃い」で、会場は多くの同窓生で賑わい、華やかな裡に終演しました。手弁当で出演して頂きました皆さん、そして、公演を裏で支えたスタッフの皆さんのご協力に感謝申し上げます。さらに、10年後は「創立60周年」で同窓会も「還暦」を迎えます。その時までさらに精進を重ね、より一層のすばらしい舞台を披露しようではありませんか。

美 拝

平成18年 2月吉日

肝心うち揃てい ～琉大同窓会創立50周年記念公演を終えて～



1972年 20期卒 教育学部体育科
島 袋 君 子

同窓会創立50周年記念行事が無事に終わってから、1年2ヶ月という月日は本当に早いものです。直接、「琉球芸能と西洋音楽の夕べ」（平成17年2月19日）に琉球舞踊音楽部門の事務局として関与した関係から述べてみたいと思います。

記念行事委員会は、平成15年11月から私自身が関わり、半年後の5月にようやく、具体的に公演の全体像が見えてきて、それからは、4回程集まりを持ち11月には、全ての段取りが決まり、いよいよ本格的に始動し始めました。

その頃から舞踊班も指導責任者を選出し、それぞれに個々の舞踊「長者の大主」中のかぎやで風、早作田、金武節、前の浜、鶴亀節は各稽古場にまかせ、合同の舞踊の「四つ竹」については、平成17年1月10日に、私の稽古場で話し合い（渡久地美代子師、比嘉美好師、高嶺久枝師）と大まかな構成等に着手してとりかかることになりました。

舞踊の出演者は、総勢40人で「長者の大主」に18人、「四つ竹」に24人、それと、組踊「花売の縁」に4人、加那ヨ一天川に2人と参加しました。当初予定していたメンバーの中から7～8人都合悪く出演できなかったのは残念に思いました。

古典音楽に関して言いますと、何と総勢100人余の方々が参加して下さいました。そのメンバーの中には、国・県指定保持者の方々が多数出演しておりまして、その方々は、沖縄の芸能界でも各団体のトップとして現在でも御活躍中でございます。

稽古は、部分合同稽古だけでも、50周年記念館で4回、県立郷土劇場で1回、さらに追い込みで、琉大体育館内の武道館でも2日間にわたる総合稽古を積んで本番に臨んだものです。「四つ竹」に関しては、退職者と学生も含むメンバーで、まとめて下さった渡久地美代子先生には、労をねぎらいたいと思います。

組踊「花売の縁」を抜粋しての演目には、当初予定していた方の都合で出演できなくなり、おもいがけなく私にその役（乙樽）が回って来たのです。そのお陰で、孫（猿役）と初めての組踊共演になり記念の舞台ともなりました。

舞踊出演者も16流派派からなり、稽古の途上でもいろいろあり、プログラム作成ギリギリまで流動的で本当に大変でした。しかし、中味のある舞台だったとお褒めの言葉を聞くにつけ、これまでの苦労が吹っ飛んだ気がします。

今回の公演では、特に同窓会事務局長の宮城武久氏をはじめ、書記の與那城政子さんには大変お世話になりました。稽古のたびに飲食の心遣い、稽古場の確保、琉大同窓のTシャツ等々では、

本当にありがとうございました。また、比嘉正幸同窓会会長には、わざわざ激励にも駆けつけて下さり、赤嶺健治芸術祭等部会長にも、当初から関わって下さりまして会議等では特にお世話になりました。出演者・スタッフ・その他の関係者、そして、当日、公演会場に足をお運び下さいました皆様にも心から感謝申し上げます。

最後に、今回の取り組みの中で、西洋音楽との共演はまさに琉大同窓ならではの舞台となり、私自身「箔」がついたような気持ちでいました。

また、フィナーレをしめくくって下さった琉大八重山芸能研究会の学生の皆さんには、若さのエキスを私たちに与えて下さり、今後の沖縄芸能界の発展性を見たようで、本当に感動致しました。どうもありがとう！

こころとからだを育む力の源



1979年 27期卒 理工学部化学科
琉球舞踊出演者 高嶺久枝

2006年は、琉球大学創立56年、同窓会創立52年目となり、又、私が生まれ、生かされて、50年目の節目の年でもあります。

大学と共に時代を生きていた事を感懐深く思うと同時に、2000年には琉大開学記念行事、2005年2月に同窓会創立50周年記念芸術祭に参加させていただき、感謝の祈り舞を捧げることが出来たことは、私の人生においても、記念すべき日となっております。

かえりみますと、旧首里キャンパスの地での出会いと学んだ事は、私のいのちとこころの根本をかたちづくっています。

幼い頃の病がもとで、言葉へのコンプレックスをもっていた私が、言葉でなく、身体を使ってできる趣味はと、12歳の頃より琉球舞踊を習い始めました。又、将来は、身体の研究がしたくて、医者になりたいと思っておりました。

高校3年生の時に、化学教諭であった高嶺朝勇(現在は義兄で同窓)に影響を受け、「化学」の学問の楽しさを知り、琉球大学の理工学部化学科へ入学しました。大学で化学を本格的に学ぶ中で、将来は一人で実験室に籠もって研究する仕事に就こうと考えるようになりました。

卒論では、故森巖教授の下で、「アオガンピ」植物の結晶化と新化合物の発見をテーマとし、研究いたしました。研究では、まずはじめに、西表の山を横断しながら植物採集をしました。

それを実験室に持ち帰り色々と溶媒を変え、くり返しがえし抽出し、余分な物質を取り除いていきます。その作業を早く終えたいと思い、旧首里キャンパスの古い建物の実験室で、幾日も怖さと戦いながら徹夜実験をくり返しました。すると、ある日、突如と結晶化し、現れた結晶に感動したことは今でも忘れられません。あの透明な輝きは、何より美しいと思いました。

卒業後の私は、琉球舞踊家となりましたが、首里城跡地で化学の研究を通して学んだ、くり返す行為が、首里王府時代に創られた宮廷舞踊の継承と研究、精進、伝承をする為の一つの方法となりました。

舞うことをくり返すことにより、身体の癖が削ぎ落とされ、所作が透明化され、時、場所も越え、人々の共通のテーマを表現し、人々のもつ精神世界の記憶に触れ、蘇らせ、心の綾を象徴し、見る側との魂の触れ合いが深まり、心からの出会いが生まれます。

型なし文化が氾濫する中で、現代人のからだもこころも脆弱になってきています。「楽をすることは、文化的な暮らし」と錯覚し、生活の在り方や労働の仕方を改変してきたからでしょうか。体を耕すこと、自然を耕すことの大切さを、学問と、舞う行為が教えてくれました。血と地のご縁を感じ、生かされていることを実感しています。

また、去る記念公演では、同窓となった娘高嶺美和子、弟子でもあり同窓でもある宮城伸子(義姉)・寿乃親子、宇地原幸子、豊見本美重子、照屋麻美子、湧田桐子の8人の出演も叶い琉舞かなの会高嶺久枝練場の記念日ともなりました。

「続いてこそ道」



1970年13期卒 教育 音楽科
西洋音楽出演者 嶺井恵子

ふるき都にさすらいて 世紀のあとを 尋ねれば
ああ青春の血はさえて 羽ばたく希望 力あり

琉大逍遥歌の合唱に迎えられ、琉球大学教育学部音楽科へ入学したのは、1966年の4月であった。

あれから四十年、幾度この曲を口ずさんで来た事か。うれしい集い、悲しい別れ、事ある度に歌い継いで来た琉大首里キャンパス組の愛唱歌である。

私は、いわゆる団塊の世代である。経済的にも文化的にも恵まれない時代に生を受け、常に集団として十把一絡げ的に教育され、個として尊重される機会が少なかった我々は、切磋琢磨して、地道に生きる習性が自然と身についた。

大それた野望こそ抱かなかつたが、ささやかな希望は捨てなかつた。

入学と同時に「声楽」と出会い、一度始めたら止められない性分の私は、歌の魅力に憑りつかれたが、情熱ばかりでは美しい声は出せない。

結果のみを求めて必死になりだした私に、師である城間繁先生は、おっしゃった。

「続いてこそ道なのだ」と

発声に悩んで質問攻めにした時も、テクニックについては一言のアドバイスもくださらなかったが、音楽の表現や発音については細部まで指摘された。

私は不満であった。発声の技術的な方法論を学びたかったからである。

「本物を見なさい」とも言われた。

答えの得られない苦しい四年間を過ごし卒業したが、その後も「幻のベルカント(美しい声)を求めてレッスンへ行い続け、気がつけば二十年の月日が流れていた。

歌う事はすでに習慣となり、生活の一部であり、喜びとなっていた。

その頃になって、やっと「若い頃の硬さが取れ、一つ一つの歌に輝きが増した」と師は評してくださった。

不思議な事に、あれ程夢中で追い求めていた「ベルカント唱法」がいつの間にか身について、楽に歌える様になっていたのだ。

「続いてこそ道」の重みがようやく理解出来た時、ささやかな希望は、大きな「力」となっていたのである。

琉大同窓会も2004年12月に創立50周年の節目を迎えた。記念芸術祭の素晴らしい舞台にも立たせて頂き、本当に有難い事です。これも全て続けて来た事へのご褒美と思い、感謝の気持ちを込めて歌わせてもらいました。

首里キャンパスから千原キャンパスへと連綿と続いた一筋の道は、今後も百年、二百年とその歴史を刻み続けるだろう。

その道端にほんの小さな小さな存在として関わられたことは、何と幸せだろう。

